土地購入終息宣言　サイババ関連団体

宿舎跡地の購入白紙撤回

隣接のホテル跡地の取得も断念

小林村長 よかった、感謝している

サイババ関連団体が購入を断念した宿舎跡地

村有地の弥彦村弥彦、旧競輪選手宿舎跡地に、インドの宗教指導者サティヤ・サイババ氏の関連団体による施設の建設計画がある問題について、二十八日、跡地を落札した業者が小林豊彦村長に対して、文書で跡地の取得を断念し、計画の白紙撤回することを申し出た。跡地の入札から二か月余りで解決のめどが立ち、小林村長は「正直言ってよかった。よく決断してくれたと感謝している」と話している。

村は二十三、二十四日に弥彦体育館と弥彦村農村環境改善センターの二会場で住民説明会を開いた。跡地を落札した新潟市西区小新南二、ファーストクリエイトの五十嵐一芳社長らも出席したが、住民からは激しい反対意見が続出し、五十嵐社長は住民の賛同が得られなければ計画を断念する考えを示していた。

二十七日、五十嵐社長らが弥彦村弥彦、本高寺の村井良一住職を訪ね、土地取得を断念する意向を伝え、翌二十八日、五十嵐社長が村井住職に小林村長あての文書を託したという。

村井住職は弥彦村仏教会会長で、今回の問題が明らかになった際、仏教会として五十嵐社長らに説明を求め、五十嵐社長とは面識があった。

文書には跡地に加えて、隣接地の旧ホテルいずみの土地の取得も断念し、計画を白紙撤回すること、入札時の保証金八十一万円の返還は求めるが、裁判で損害賠償を求めないことなどが記されていたという。文書は村の総務課職員を通じて、この日のうちに小林村長に届けられた。

裁判になった場合は問題の長期化が予想されたが、二月二十二日に跡地の入札が行われてから二か月余りで解決のめどが立った。

小林村長は「初めから裁判も住民投票もしたくないと思っていたので、その通りになって非常にありがたい」と申し出を歓迎し、引き続き顧問弁護士と相談して最終判断するとしている。

サイババ氏の関連団体の「ホーム・オブ・ユニバーサル・ピース」の牧野元三顧問も、二十八日午前五時七分のブログで、「村の土地の購入の終息宣言」を報告した。

ブログによると、住民説明会のあと、関係者が話し合って「新潟の土地の購入をやめよう」と話がまとまった。そうしたところ、二十六日朝には、

サイババ氏の理念を引き継ぐというマドゥスーダン・ナイドゥ氏を通して、サイババ氏から「戦わずに、手を退（ひ）きなさい」というメールが届いたという。

それを受けて、五十嵐社長が村井住職に小林豊彦村長にあてた書状を託し、「村の土地の購入の終息宣言」をしたと記されている。

二十八日早朝、
屋の中の廃材など
火災があったのは小
池、大倉土建資材置き場
の小屋。二十八日午前五
時二十五分、火災に気付
いた近所の住民が一一九
番に通報した。
燕・弥彦総合事務組合

29日雪

加茂市の雪椿まつ
十九日午前十時から
市民茶会を開き、今
締めくくる。
ことしの雪椿市民茶会
も従来通り、同神社内の
二席と野だての一席の合
わせて三席を設けて午後
三時まで開催。三百五十
部用意した一部・一千五
百円の茶状はすでに完売
している。